

手話言語法ニュース

2017年6月26日 No.42

事務局：一般財団法人全日本ろうあ連盟 〒162-0801 新宿区山吹町130 SKビル8F
TEL: 03-3268-8847/FAX: 03-3267-3445
手話言語法制定推進運動本部：委員長 石野富志三郎 事務局 久松三二
法制定検討グループ：久松三二（事務局長兼）・大杉 豊・田門 浩
普及啓発・広報グループ：小中栄一・石川芳郎・岡野美也子・倉野直紀
条例・ネットワーク支援グループ：長谷川芳弘・川根紀夫・石橋大吾・大竹浩司

手話言語フォーラム 北海道・東京・京都で開催

6月6日、手話言語フォーラムが「北海道」「東京」「京都」で開催され、それぞれの会場で、世界ろう連盟（以下、WFD）の理事が出席し講演されました。

北海道

北海道では、札幌市の「北海道立道民活動センター（かでの2・7）」で開催され、約200名の参加者が集いました。



当日は、WFDのカイサ・アランネ理事（フィンランド）、フローリアン・ロイバ理事（アルバニア）に「世界の手話言語法制定の状況」というテーマで講演いただきました。

ロイバ理事からは、アルバニア政府が手話を言語として認めるまでの運動について話されました。



カイサ・アランネ理事（左）、フローリアン・ロイバ理事（右）



会場風景

東京

東京では、中野区の「なかのZERO本館ホール」で開催され、508名の参加者が集まりました。



当日はWFDのコリン・アレン理事長（オーストラリア）、カスパー・ベルグマン理事（デンマーク）が「世界の手話言語に関する法制度の状況」というテーマで講演し、各国の手話言語に関する法制度の種類や、手話言語法と障害者権利条約の関係性を、パワーポイントやグラフで説明し、手話言語の研究を進めること等が課題と述べました。



コリン・アレン理事長



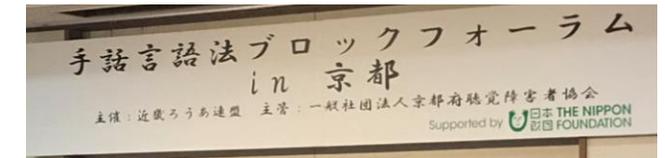
カスパー・ベルグマン理事



会場風景

京都

京都では、京都市の「全国手話研修センター」で開催され、約200名の参加者が集いました。



当日は、WFDのジョセフ・マーレー副理事長（アメリカ）、ジグジドゥ・ドラムスレン理事（モンゴル）が「世界の手話言語に関する法制度の状況」というテーマで講演いただきました。

ジグジドゥ理事は、モンゴルの現在の状況や、「手話は大切」という意識を持ち取り組んでいくことの大切さを述べました。



ジョセフ・マーレー副理事長



ジグジドゥ・ドラムスレン理事



会場の様子

★連盟ホームページでは、このフォーラムの様態と併せて、表敬訪問の様子も掲載しています。

- ・北海道 <http://www.jfd.or.jp/2017/06/15/pid16465>
- ・東京 <http://www.jfd.or.jp/2017/06/20/pid16488>
- ・京都 <http://www.jfd.or.jp/2017/06/09/pid16409>
- ・京都 <http://www.jfd.or.jp/2017/06/20/pid16506>

全国手話言語市区長会 総会開催

6月7日、東京都麹町の「都市センターホテル」にて、「全国手話言語市区長会総会」が行われました。

発足から1年を迎え会員数も発足当初と比べ多くの自治体が入会し、現在315自治体が会員となっています。

その結果、手話言語条例の制定や、ろう者及び手話言語への理解の広まりにつながっています。

今回は、昨年の出席者数を上回る77名が出席し、来賓として内閣府、文部科学省、厚生労働省の関係者も臨席されました。

総会は、全国手話言語市区長会会長の田岡克介石狩市長の挨拶から始まり、来賓からは手話言語市長会相談役である日本財団の尾形武寿理事長と連盟理事長の石野、関係・協力団体である全国手話研修センターの黒崎信幸理事長から挨拶がありました。



石狩市 田岡克介市長



全国手話研修センター
黒崎信幸理事長



連盟理事長 石野



室蘭市の青山剛市長、



富士見市の星野光弘市長、



松江市の松浦正敬市長

その後、連盟事務局長の久松が「手話をめぐる全国の動き」のテーマで、昨年、手話言語法制定推進運動本部で実施したベルギー（EU）、韓国の調査結果を交えて全国の状況を報告しました。



連盟事務局長 久松



厚生労働省 自立支援振興室
吉田正則室長

また、厚生労働省の自立支援振興室の吉田正則室長より平成29年度意思疎通支援事業等の計画取り組みの中で、遠隔手話サービスと電話リレーサービスを予算化した等の説明がありました。

最後に、山本龍前橋市長、品川萬里郡山市市長より手話施策、ICTの活用などについての発言がありました。

★この総会の模様は、連盟ホームページに掲載しています。

<http://www.jfd.or.jp/2017/06/07/pid16388>

手話を広める知事の会 入会数43に

昨年7月に発足した「手話を広める知事の会」の会員数が皆様の働きかけにより、6月19日現在で、43になりました。

入会一覧は下記の通りになります。

北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、新潟県、長野県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

<http://www.jfd.or.jp/2016/07/26/pid15316>

条例施行後の取り組み

長野県

長野県では、昨年度手話に対する理解促進事業として県内のプロスポーツ団体の応援団を結成し、手話で応援する事業が始まり、プロバスケットボールの「信州ブレイブウォリアーズ」を応援しました。

この事業は、県民の注目度が高い県内プロスポーツ団体をろう者と聞こえる人が一緒に、手話で応援する取り組みを通じて、誰もが手話を親しみながら習得する機会を提供することを目的としています。

また、「信州山の日」にろう者と共にトレッキングやゲームを通じ交流し、手話に親しむイベントが行われています。

その他、お店や駅の案内所など場面ごとの対応例をイラストで紹介した手話ガイドブックを作成し、コンビニ、交通事業者、旅館組合などへの配布や、県民向けの手話講座、市町村職員向けの手話講座が開催されました。

今年度はプロサッカーチームへ手話での応援や、観光関係者向け手話講座を予定しています。

また新規事業として手話や字幕付き観光動画を作成し、県HPに掲載予定です。

